

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月29日
- 事業名 : 麒麟のまち地域食堂ネットワーク構築事業
- 資金分配団体 : 一般社団法人全国食支援活動協力会
- 実行団体 : 鳥取市地域食堂ネットワーク

### 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
0101.ロジ拠点（共同事業体あるいはコンソーシアム）が解決すべき課題を共有できている	①ロジ・ハブ拠点の管理を担うメンバー構成が十分かどうか ②課題の共有がされているか	①ネットワーク会議に参画する企業や行政が生まれている ②物品の受入れ配布等システム化に向けて共有化の構築を図っている	2024年2月	① ロジ拠点の管理は、地域食堂ネットワークと鳥取市中央人権福祉センターの職員1名（鳥取市フードサポート事業担当者）と行っている。ハブ拠点は、河原人権福祉センター、気高人権福祉センター、新温泉町社会福祉協議会の職員が行う。寄贈食品は、地域食堂（こども食堂）へ毎週金曜日に配送する。また、高齢者、生活困窮者等への食料等支援も行っている。 ② 食支援システムを運用するために、ロジ・ハブ拠点の担当者（河原人権福祉センター、気高人権福祉センター、新温泉町社会福祉協議会）とオンラインで説明会を行い、運用を開始する。寄贈食品の配分数等については、食支援システムやメール、電話で確認を行う。	2

0102. ロジ拠点 が協働して事業を振 り返り、改善させ ている	①会議事録の内容 ②参画団体・機関 が継続的なコミュ ニケーションを図 っているか	ネットワーク会議や食 フェスタを通じて事業 終了後もコミュニケー ションできる協力関係 の素地が生まれている	2024 年 2 月	食支援システムの導入説明会 6 月 15 日 10 時～12 時 参加者：鳥取市地域食堂 ネットワーク 1 名、中央人権福祉センター 1 名、河原 人権福祉センター 3 名、気高人権福祉センター 3 名、 新温泉町社会福祉協議会 2 名、全国食支援協力会 操作方法について不明な点等は、電話連絡で確認 をする。寄贈された食品の活用方法など情報交換を 行っている。	2
0201. 協力してく れる企業・団体が 増える	協力企業・団体の 数と支援内容のバ リエーション	50 団体 麒麟のまち圏域の地域 食堂等の居場所とコラ ボする企業の社会貢献 活動のバリエーション が豊富になる	2024 年 2 月	令和 4 年 4 月現在 39 団体。22 年度も企業・団体か ら継続的に支援を受けている。 詳細は別添資料参照 地域食堂ネットワーク参加者一覧表	2
0202. 麒麟のまち の圏域を超えた他 市町との連携が生 まれる	①窓口体制がある ②事業に協力・対 話関係にある市町 の数	①担当コーディネータ ーが配置されている ②事業に協力・対話関 係にある市町が増える	2024 年 2 月	① 担当者の配置状況 ロジ拠点に地域食堂ネットワーク職員 2 名配置 ② 麒麟のまち圏域以外の対話関係にある市町 琴浦町、倉吉市、米子市、鳥取県隣保館連絡協議 会。	2
0203. 資金分配団 体や他ロジ拠点同 士が連携すること により、情報が集 まる	会議や出張への参 加状況	定期的に参加している 状態	2024 年 2 月	7 月 15 日、休眠預金事業中間評価事前研修 オンラインで 2 名参加 9 月 14 日～15 日、合同研修@長野に職員を 1 名派遣 し、ロジ拠点の視察、他県ロジ拠点の取組や意見交換 を行った。	2

0301. 食品寄付等を受け止められて分配する環境が整備されている	ロジハブ拠点の機能が十分にある	運搬用車両を確保している 地域で倉庫貸与や物流に協力してくれる人・団体が生まれている	2024年 2月	食品の配送については、所有の運搬車で行っている。 食品の保存・管理は、ロジ拠点：鳥取市人権交流プラザ内食料庫、ハブ拠点：河原人権福祉センター、気高人権福祉センター内、新温泉町社会福祉協議会施設内で行っている。 今後、遠方の配送について運送会社と協議を行う予定である。	2
0302. 支援地域内の仕分け、配送に協力してくれる担い手がいる	各市町への配送体制が確立されているか	各市町への配送体制が確立されている	2024年 2月	毎週金曜日にネットワークスタッフが、各食堂に仕分けする。鳥取市内の5食堂へは、鳥取福祉会が毎週金曜日に配送する。残りは、人権福祉センター職員、食堂運営スタッフが受け取りに来所する。周辺町へは、所有の配送車で運搬する。	2
0303. ハブ拠点が安全に管理されている	ロジ・ハブ拠点が食品の取扱ルール等を活用し、適切に運営できているか	ロジハブ拠点で在庫管理、適切な食品の取扱に関して担当する人がいる	2024年 2月	ロジ拠点については、地域食堂ネットワークと中央人権福祉センターで行う。ハブ拠点は、ハブ拠点施設の職員が管理している。	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
説明会は、オンラインで実施。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	実施状況の分析	山根、齊藤	事業担当者
内部	事業設計の分析・アウトカムの分析	川口	事業担当者

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
活動団体	・食品の取扱量 ・配布する地域食堂の数	食品の量、分配団体ともに 2021 年度当初より増えている状態。	2024 年 3 月	食品の取扱量は、昨年より増加する予想である。 配布する、地域食堂(こども食堂)は、29 か所と昨年より 5 か所増えた。今年度、試行地域食堂(こども食堂)へ食品の提供を行っている。 生活困窮者等、母子支援施設(2か所)、児童養護施設(2か所)、更生保護施設(1か所)へも提供している。
連携団体	食糧支援をきっかけにしたハブ拠点の新しい地域役割が増えている	ハブ拠点の設置により、地域食堂等、地域資源開発や新しいサービス創出に貢献している状態。	2024 年 3 月	ハブ拠点と地域食堂(こども食堂)のコミュニケーションが深まった。ハブ拠点では、食品だけではなく、日用品も集まるようになりリユース事業の開始や施設近隣の方の相談受付、食糧支援も行う。

連携団体	食糧の広域分配を促進する新しい支援企業・団体・行政との連携実績	鳥取県中西部、島根県をつなぐ食料分配の仕組みが構築されている	2024年3月	鳥取県中西部へ物流を展開するために、24時間テレビの支援事業を活用して、中部地区に冷凍冷蔵庫・米保管冷蔵庫を設置することができた。
------	---------------------------------	--------------------------------	---------	---



① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
取り扱い食品量が事業開始時に比べて増えている	増加傾向で昨年より増えている。	地域食堂（こども食堂）について少しずつではあるが、認知が広がっている。昨年冷蔵冷凍庫を設置したことで、冷蔵品や生鮮野菜を受け止められるようになってきていると考える。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	今年度4月～9月の食品取扱量 10,892kg、昨年度同期間食品量 10,253kg でわずかではあるが、増加傾向である。特に農産物と冷蔵加工食品が、昨年より増加している。農産物は、野菜生産会社からの寄贈が、ほぼ毎日あったためである。

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	実行団体による活動は計画通りに実施されているか	新たに職員を1名配置	職員の雇い入れが、遅れたために、こども食堂・地域食堂の周知、支援企業の開拓が遅れていた。8月より職員を1名配置することができた。10月以降、こども食堂・地域食堂のPR活動を行い、支援企業の開拓を行い、取扱食品等の量を増加させる予定である。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	食糧支援をきっかけにしたハブ拠点の新しい地域役割が増えている	ハブ拠点の新しい地域役割が増えた	ハブ拠点と地域食堂（こども食堂）への食支援によってコミュニケーションが増え、深まってきた。ハブ拠点の人権福祉センターでは、食品とともに日用品も集まるようになり、新たにリユース事業を開始する。
組織基盤強化・環境整備	鳥取県中西部、島根県へロジハブを広げるにあたって、巻き込むべき行政、経済団体への働きかけが十分されているかどうか	鳥取県中部地区にハブ拠点を1か所設置した。	鳥取県隣保館連絡協議会の協力を得て、鳥取県中部地区の琴浦町内にある、赤崎文化センター内に24時間テレビの支援を活用して冷凍冷蔵庫、米冷蔵保管庫を設置し、ハブ拠点を増やすことができた。テレビ番組の支援を活用したことによって、地元テレビ局と新たに連携が生まれた。また、来年度は、中部地区の倉吉市内に1か所、西部地区に2か所ハブ拠点を開設する予定である。

### ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

ハブ拠点を人権福祉センターに設置したことによって、鳥取県隣保館連絡協議会とのつながりが新たに作ることができ、鳥取県中部地区の琴浦町内に新たにハブ拠点を設置することができた。鳥取県隣保館連絡協議会とのつながりを作ったことによって、麒麟のまち圏域から鳥取県中西部にハブ拠点を新設して、物流を展開する予定である。

### ③ 事前評価時には想定していなかった成果

ハブ拠点を設置したことによって、学校給食食材の冷蔵・冷凍食品がロジ拠点に保管できないくらい大量に届いた時、ハブ拠点に分散して保管できるようになった。

テレビ番組の 24 時間テレビの支援を活用して、琴浦町内に冷凍冷蔵庫、米冷蔵庫を設置してハブ拠点を新たに設置し、西部方面へ物流コースを展開することができた。



### ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>職員を新たに 1 名配置したことによって、開始が遅れた地域食堂（こども食堂）の周知活動、支援企業の開拓を取り組み、取扱食品等を増加させることができると考える。</p>



⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

こども食堂・地域食堂の認知度を上げるために SNS 等を活用した PR 活動  
支援団体の金融機関や経済団体と連携を行い、新規支援企業を増やし、食品等の増加を図る。

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）